

平成14年度財団法人東洋文庫事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成14年度財団法人東洋文庫事業計画の概要は下記の通りです。

事業目的

財団法人東洋文庫は、全国の代表的な研究者よりなる東洋学連絡委員会の企画ならびに審議にもとづき、広く学界の要望に応える全国的な、また国際的な東洋学研究センターとして、資料センター・共同利用研究施設としての機能を果たすべく、必要な各種の事業を行う。

事業項目

- I 調査研究
- II 研究資料収集
- III 研究資料出版
- IV 普及活動
- V 学術情報提供

事業内容

[目的] 東洋文庫は、研究センターとしての使命を遂行するために、東洋学の各分野における研究情報を5部門に分けて収集整理し、また、特定の研究課題ごとに研究委員会を組織し共同研究事業を行う。

[部門] (第1部門) 中国研究 (第2部門) 日本研究 (第3部門) 東北アジア研究 (第4部門) 中央アジア・イスラム・チベット研究 (第5部門) インド・東南アジア研究
[計5部門]

[研究委員会]

(第1部) 東亜考古学研究委員会、古代史研究委員会、唐代史(敦煌文献)研究委員会、宋代史研究委員会、明代史研究委員会、近代中国研究委員会 (第2部) 日本研究委員会
(第3部) 清代史(満蒙)研究委員会、朝鮮研究委員会 (第4部) 中央アジア・イスラム研究委員会、チベット研究委員会 (第5部) 南方史研究委員会 [計12研究委員会]

[事業]

I 調査研究

(1) 一般調査研究

新研究プロジェクト：「地域間比較の手法による伝統的社会の仕組みと展開に関する研究

－東アジア・中央アジア・西アジアを中心に－

平成12年度から4年間は、朝鮮・中国・中央アジア・西アジアを中心に、ユーラシア大陸を東西につらぬくアジア社会をとりあげ、写本・刊本・文書資料等にもとづいて伝統的社会のしくみとその展開を地域間比較の視点から体系的かつ実証的に研究する。

本年度は、特に、東亜考古学研究委員会・中央アジア・イスラム研究委員会を中心に調査研究を行う。

A) 東亜考古学研究委員会 (第1部門)
『東アジア都城遺跡研究』の作成。

B) 中央アジア・イスラム研究委員会 (第4部門)
『イラン議会文書主題索引』の作成。

C) 資料購入

(2) 特別調査研究

A) チベット特別調査研究

[目的] チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

[研究課題] チベット語文語辞典の編纂

[事業];

これまでの研究事業では、「チベットの歴史と文化の系統」(昭和43年度～同52年度の10ヶ年計画)の研究課題のもとに、各時代の基本的チベット語文献(大蔵経経部経典、論部諸論著、史書、暦書、宗派別論著等)を解読・分析し、チベット文化の特性を明らかにすると同時に、チベット語文語の時代別・内容別の特性を把握することができた。昭和53年度からは、以上の成果を踏まえ、チベット人との協力のもとに、各時代の基本的文献を資料とした『チベット語文語辞典』の編纂の準備を進めている。平成12年度からは、電子辞書形式での編纂を進めている。

[事業内容]；

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会受入のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を行う。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースを作成する。
- ② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、実際にチベット人研究者とともに分析・研究を行う。
- ③ 『チベット語文語辞典』編纂の基礎資料としてチベット仏教の基本的文献についてのデータベースを作成する。

2) チベット文献の収集・整理

研究上重要な西蔵蔵外文献資料の収集、或いはチベット関係文献をインド・中国・欧米などにおいて出版された複製本またはマイクロ・フィルムによって補充する。

B) 近代中国特別調査研究

[目的] 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

[研究課題] 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

[事業]；

財団法人東洋文庫の蔵書の基礎をなしているモリソン文庫は、1910年代までの中国関係の欧文図書・資料の一大コレクションであり、これを中心に東洋文庫は、1955年、近代中国研究委員会を設置し、その後このモリソン文庫に加えて世界屈指の資料収集の実を挙げ、これにもとづく研究成果と上記の収集資料とを公開して今日に至っている。これらをさらに発展させるために、昭和52年度以降、本研究を特別調査事業とし、近時各国から公表されつつある各種文書のマイクロフィルムを中心として、関係資料の収集・増補につとめ、専門研究者を動員して、その史料としての信頼性につき書誌的な調査研究をおこなっている。また、その資料内容の調査研究にもとづき、収蔵資料の件名目録を編纂し、これを刊行することを目標とする。

[事業内容]；

1) 共同利用研究

在日中の国際的に著名な外国人研究者および国内の広汎な研究者の間で、専門研究について実質的な討論をおこない、また研究状況に関する国際的な情報交換をおこなうため、共同研究シンポジウムを開催する。

2) 情報交換および参考業務

近代中国研究委員会の「近代中国研究事務室」の活動にもとづき、国内・国外の研究者に対しその研究情報を相互に交換・提供するため、『近代中国研究彙報』を年1回発行し、また、一般の研究者・学生のために、収集図書・資料および各種の近代中国参考図書を公開する。これによって近・現代中国研究の内・外の情報センターとしての機能を果たす。

3) 図書資料の収集・整理

- ① 中華人民共和国・香港・台湾・日本で発行された人文・社会科学関係の図書・新聞・雑誌資料。
- ② 欧米を中心として諸外国で発行された人文・社会科学関係の図書・新聞・雑誌資料。
- ③ 各国公表の外交関係などの第一次文書資料（主として、マイクロフィルムによる）。

4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第25号 A5判 1冊 編集・刊行

II 研究資料収集

(1) 一般研究資料収集

[目的]；

東洋学に関する基礎資料および新刊専門書の収集。30部門におよぶ和・漢・洋の所蔵資料の補充、約950種の定期刊行物の継続的収集。

[事業];

- A) 資料調査：新刊書・稀覯書・古書の入手につとめるため、国内外の出版社・専門書店および刊行物を有する研究機関との情報交換によって、その出版状況を調査把握し、また、各研究室及び専門研究者に対して文献に関するレファレンスを行い、購入・交換のための図書撰択と収集の計画化をはかる。
- 1) 図書・資料撰択リストカードの作成。
- B) 資料交換
- 1) 国内交換：各大学・研究所の紀要類、主要学会誌を東洋文庫の出版物と交換し入手する。
- 2) 国際交換：約500ヶ所の東洋学専門研究機関、主要大学と、東洋学関係出版物の交換を行う。
- C) 資料購入：国内・国外における洋書・和漢書・複写資料等の東洋学関係の新刊書をはじめ、未交換の定期刊行物を収集する。

(2) 特別研究資料収集

[目的];

中央アジア(東西トルキスタン)地域、東アジア(中国・朝鮮)地域、西アジア(イスラム諸国)地域、東南アジア地域に関する現地語、アジア諸語特定資料、欧文・和文の研究図書資料を重点に収集・整理するが、他のアジア地域においても適宜収集に努める。

[事業];

- A) 資料調査：新刊書・稀覯書・古書の入手につとめるため、国内国外の出版社・専門書店・刊行物を有する研究機関との通信連絡等によって、その出版状況を調査把握し、また、各研究室及び各専門研究者に対し文献に関するレファレンスを行い、購入、交換のための図書撰択と収集の計画化をはかる。
- 1) 図書・資料撰択リストカードの作成。
- B) 資料購入
- 対象を1) 中央アジア、2) 東アジア、3) 西アジア、4) 東南アジア、の地域に分け、それぞれの地域について、欧文・現地語の研究文献資料を収集・整理すると共に、写本・碑文・古刊本などのマイクロ・フィルム資料などを収集する。
- また、近年、重要な発見が相次いでいるベトナム語、タイ語、アラビア語、ヘブライ語、モンゴル語、満洲語などの文書資料を、主にマイクロ・フィルム等によって計画的に収集する。

(3) 研究資料保存整理

[目的];

財団法人東洋文庫の所蔵資料のうち、大正6年に「モリソン文庫」が渡来してから85年、この世界に比類のないコレクションに収められている欧文の稀覯書、および他の貴重漢籍、また利用頻度の多い和漢書の中には、今のうちに装釘の補修をほどこして損壊を防ぐことの必要なものが多い。その原本の体裁を最大限に維持しつつ保存するために、早急に対処することが本事業の目的である。

[事業内容];

- A) 貴重本の補修及び再製本（洋書および和漢書に分けて、重点主義で遂行する）および定期刊行物の製本（約1,000冊）。
- B) 補修再製本済みの貴重本をはじめとする稀覯書およびマイクロポジフィルムとして収蔵している貴重資料を整理（補修・撮影・反転）して研究・閲覧に供する。
- C) 『新着図書目録』 第50号 B5判 1冊 編集・刊行

Ⅲ 研究資料出版

(1) 一般研究資料出版

[目的] 新しく発表される、或いは国内に埋もれている東洋学に関する重要な研究業績を出版し、国内国外に紹介する。

[事業];

A) 『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) 第84巻第1号～第4号 A5判 4冊 編集・刊行

B) 『東洋文庫欧文紀要』(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No.60
B5判 1冊 編集・刊行

(2) 特別研究資料出版

A)

[目的] 調査研究(東洋文庫事業I)の成果を刊行して国内国外の研究機関および研究者へ紹介する。

[事業] 『内国史院檔-天聰七年-』 B5判 1冊 編集・刊行 (清代史(満蒙)研究委員会担当)

B)

[目的] アジア研究の国際化をさらに促進すべく、東洋文庫を中心とする日本のアジア研究の優れた研究成果を、主に英文等の欧文を中心に『東洋文庫欧文論叢』として刊行する。

[事業];

“*Research Trends in Modern Central Eurasian Studies(18th-20th Centuries): Critical Review on Works Published between 1985 and 2000*”

(東洋文庫欧文論叢 Toyo Bunko Research Library 3)

A5判 1冊 編集・刊行 (小松久男研究員等担当)

Ⅳ 普及活動

[目的] 研究成果及び研究情報を一般に普及する。

[事業];

(1) 講演会の開催

A) 東洋学講座 春・秋2期 年6回

B) 特別講演会 (年約7回)

(2) 研究会(東洋文庫談話会)の開催(不定期)

(3) 『東洋文庫書報』 第34号 A5判 1冊 編集・刊行

Ⅴ 学術情報提供

[目的];

東洋文庫は、日本における東洋学の共同利用の研究機関であると同時に、国内外の研究者並びに研究機関との連絡に当たって今日に至っている。従って、学術情報の提供に関する下記の諸事業は東洋文庫として最も力を入れているところである。

[事業];

(1) 研究者養成

[目的];

東洋学の各種分野の専門研究者を養成するため、特に未開拓分野に重点を置きつつ大学院博士課程終了程度の人材に「奨励研究員」として引き続き2ヶ年間の研究の機会を与える。

[事業内容];

中国研究 高瀬 奈津子(明治大学大学院P.D.)
「中国北朝隋唐時代の仏教と国家・社会の関係」

(2) 図書・資料の閲覧(協力)サービス

(3) 研究資料複写サービス

(4) 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報 第83巻4号、第84巻1、2、3号	各400部
宋史食貨志訳註(四)	150部
The Diversity of the Socio-economy in Song China	150部
近代中国研究彙報 第24号	50部
東洋文庫書報 第33号等2種	各50部

(5) 研究者の交流および便宜供与のサービス

A) 長期受入

1) 国内研究者の受入

2) 平成14年度日本学術振興会特別研究員P.D.の受入

大河原 知樹(慶応義塾大学大学院P.D.)
「イスラム法廷文書をもちいた中東の家族史研究: 19~20世紀初頭のダマスカス」
(平成12年度採用、同13・14年度3ヶ年間)

佐藤 健太郎(東京大学大学院P.D.)
「11~13世紀アンダルス(イスラーム・スペイン)における暦と祭」
(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

安藤 潤一郎(東京大学大学院P.D.)
「近代中国におけるイスラム系少数民族の研究 - 主として国際関係の視座から」
(平成14年度採用、同15・16年度3ヶ年間)

3) 外国人研究者の受入

ABULIMITI Baisier 中国新疆師範大学副教授
「古代ウイグル言語と文化についての研究」
(平成13年9月22日以降1ヶ年間・国際交流基金フェローシップ)

夏 日 新 中国湖北省社会科学院研究員・歴史研究所所長

「日本収蔵中国魏晉南北朝隋唐時代に関する文献資料の調査と研究」

(平成14年5月31日以降6ヶ月間・中国国家留学基金資助)

B) 研究者の派遣

C) 外国人研究者への便宜供与

D) 研究会等への会場提供サービス

(6) 特定研究資料の収集

(7) 研究資料の補修再製本・製本

(8) 参考情報提供サービス

A) 『東洋文庫年報』 平成13年度版 A5判 1冊 編集・刊行

(9) 広報普及

平成14年度財団法人東洋文庫特別事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成14年度財団法人東洋文庫特別事業計画の概要は下記の通りです。

事業内容

一. 特別調査研究並びに研究成果の編集・整理等

(1) 日本学術振興会科学研究費補助金並びにその他助成金による事業

A) 平成14年度科学研究費補助金による事業

1) 研究成果公開促進費（データベース等）の対象事業

[名称]「東洋学総合情報システム」 [東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信]

(平成6年度以降採用、14年度申請中)

[分野]「東洋学全般」

[事業の概要];

本プロジェクトは、東洋学に関する世界有数の研究所・図書館である東洋文庫における各種情報を統一的な規格のもとにデータベース化し、インターネットなどを通じて自由に検索できるようにすることを目指している。データベース構築に当たっては、できる限りアジア諸言語のオリジナルスクリプトで入力・表示・検索・ソートを行うことにより、研究者に利用しやすい環境を作っている。また、東洋文庫の豊富な情報を元に他機関のデータベース構築の支援を行う。アラビア文字文献書誌については、入力支援だけではなく、数機関のデータを統合した総合目録を公開している。今年度は、従来の特長語・中国語・ハンガルのデータの他に、特に東洋学に関する洋書の書誌入力を充実させ、19世紀から20世紀初頭の貴重な図書のデータベースを完成・公開したい。

2) 基盤研究（B）の対象事業

[課題]「宋代の経済政策及び関連する諸政策の総合的研究」

[研究代表者：斯波義信]

(平成14年度新規申請中、3ヶ年間)

[目的];

本研究は、宋代の経済政策と関連する他の諸政策全般とのかかわりにおいて解明することを狙いとする。具体的には三つの基礎的な研究作業を踏まえたい。

一つは宋代の経済政策の全体像を明らかにする作業である。宋代の経済政策を取り纏めたものに『宋史食貨志』があるが、われわれはその訳註書を既に4冊刊行し、残るは専売・商業税・金融政策・貿易管理等の2冊分のみとなった。今回われわれは『宋史食貨志』研究を継続し訳註作業を完結させ、宋代の経済・財政運営の全体像を浮き彫りにしたい。われわれの『宋史食貨志』訳註の作業は、詳細さにおいて他に類を見ないものと自負している。

次の作業は個々の経済政策の究明を深めることである。『宋史食貨志』研究には、『宋会要輯稿』食貨の部の利用が欠かせない。『宋会要輯稿』は政策の立案・論議と状況認識等に関する資料の収録が豊富であるからである。われわれはその利用の便をはかるため、既に『宋会要輯稿 食貨索引 人名・書名編』、『同年月日・詔勅編』、『同 職官編』を刊行してきた。残るは、地名・一般語彙である。一般語彙の蒐集・検討・整理は従来試みられたことがなく容易ではないが、今回われわれはそれに着手して『宋会要輯稿』食貨の部の索引を完結させ、『宋史食貨志』研究に一層の便宜を与え、研究を深めていきたい。

三つ目は経済政策を全体の政策立案・実施の過程の中に位置付けることである。経済政策はもろもろの政策の一つに過ぎず、それは政治・軍事・外交・文化・社会等の政策と密接不可分である。経済政策はその全体的な政策のなかで捉えられなければならない。しかも政策を立案・策定し実行するのは中央集権制

に支えられた中央の、時に地方の官僚である。従ってその官僚制と官僚支配への理解なしには、もろもろの政策への理解は得にくい。われわれはかつて、科学研究費の補助に預かり、科挙・官僚制の研究に携わり、『宋史選挙志訳註』三冊を刊行することができた。今回更にその研究を継続させ、『朝野類要』の解説を研究課題としたい。この書は短編ながら、科挙・官僚制について簡にして要を得た解説を施し、宋代官僚制の用語集としては第一に推される文献なのである。ところが内容が多岐にわたり、解説がユニークなためか正面から検討されることはなかった。われわれは内容とその根拠について検討し、官僚支配についての理解を深め、それをステップとして個々の経済政策を政策立案・実施の過程において明らかにしていきたい。

以上の三つの具体的な研究作業はほぼ同時並行的に進められ、それらの基礎的な作業を踏まえて、宋代の経済政策をもろもろの政策のなかで解明したいのであるが、一方で研究を深め一方で全体像を把握するというように、一見矛盾しているようにも見られる。しかし例えば王安石の新法は、経済・軍事から官制・教育に及ぶように、実際の政策は広狭両面より総合的に捉えられなければならないのである。また従来の政策研究は社会構造との関連を安易に説くきらいがあった。われわれは経済政策を、政策全体のなかで捉えることが先決であると考えたものである。

3) 基盤研究 (C) の対象事業

[課題] 「渤海都城の考古学的研究」 [研究代表者：田村晃一]

(平成14年度新規申請中、2ヶ年間)

[目的];

― 渤海の都城については、昭和8・9年に東亜考古学会が実施した東京城(上京龍泉府)の調査、昭和13年の半拉城(東京龍原府)や西古城(中京顕徳府)の調査、1964年に行なわれた中朝合同調査隊による東京城の調査などが行なわれており、1980年代以降、東京城の発掘調査が断続的に行われてきた。本研究はこれらの研究成果を総合して、渤海都城の実体を究明し、東アジアの各地に見られる独特な都城制の中で、渤海の都城がどのような位置を占めているかを明らかにすることを目的とする。

― これまで東アジアの都城制の研究は数多くなされ、渤海の都城もその一部として扱われてきたが、渤海の都城そのものが中心的なテーマとなった研究はまったくなかったとあって良い。この点が従来の研究とは異なったところである。また本研究は、研究代表者である田村が過去10年間にわたっておこなってきたロシア沿海州での渤海関連遺跡研究の成果をふまえ、また田村が最近おこなった渤海の瓦当に関する研究成果をもとに渤海都城の総括的な研究を実施し、その上で、東アジア各地の都城との比較研究によって、渤海都城の歴史的な位置付けを行なうことを目的とするものであって、他の研究に見られない独創的なところである。

― 渤海の都城そのものについて、最近では中国の研究者によるものが二、三見られるが、必ずしも満足なものとはいえない。その理由は、一つには渤海の都城の変遷についての認識が不十分であることによる。それは考古学的検討が不足していることによる。筆者は渤海の瓦当文様の変遷を追求することによってこの問題にアプローチしようとするものであって、このような方法は未だ余人の研究に見られないところである。

B) その他の平成14年度研究助成金による事業

1) 三菱財団人文科学研究助成の対象事業

― [課題] 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究」

[代表研究者：佐藤次高] (平成12年10月～同14年9月・2ヶ年間)

[目的];

1900年、中国甘粛地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、行政・軍事関係の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。(財)東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集して多くの研究成果を公表し、内外の研究者に対する便宜を提供してきた。今回は、交渉をかさね、世界にさきがけて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所St・ペテルブルグ支所蔵敦煌等文書をマイクロネガフィルム化することが可能になった。同文書には、漢文文献のほかにチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語、満洲語、モンゴル語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジア諸民族の歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

[事業計画]；

(財)東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A. スタイン卿将来の敦煌文書約8,000点をマイクロ化して収集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌等文書収蔵主要4か国のうち、今日までにロンドンの大英図書館(旧インド省図書館の敦煌等文書を含む)約16,000点(92,000齣)、パリ国立図書館約7,000点(54,000齣)、北京図書館約9,000点(13,000齣)のマイクロフィルムを収集し、それらを広く日本および世界の研究者の利用に供するとともに、多くの研究成果を発表してきている。

そこで、本プロジェクトでは、世界屈指の内陸アジア将来文書を保有するロシア科学アカデミー東洋学研究所St.ペテルブルグ支所蔵の非公開文書約19,000点・約250,000齣におよぶ歴大な量のマイクロフィルムを収集することを最大の成果と考えている。

1996年4月の(財)東洋文庫とロシア科学アカデミー東洋学研究所St.ペテルブルグ支所との契約調印に基づき、5・6世紀～18世紀頃の内陸アジア関係文書のオリジナル・ネガフィルム撮影・調査研究プロジェクトは、当初の収集計画約25万齣の中、三菱財団人文科学助成金等の経費により、2002年2月現在、355Reels 232,468齣を東洋文庫に将来することができた。

そのネガフィルム化された内陸アジア諸言語の内訳は、11～13世紀のタングート(西夏)語約70,000齣、6～14世紀に活躍したトルコ系・イラン系民族のウイグル・コータン・ソグド等の諸語約14,000齣、サンスクリット語・チベット語約18,000齣、モンゴル語約12,000齣、満洲語約30,000齣、5～13世紀頃の敦煌・トルファン等発見の漢文文書約32,000齣、ペルシア語約18,000齣、13～16世紀のチャガタイトルコ語約16,000齣、アラビア語約20,000齣である。本プロジェクトのマイクロ化事業は、最終段階を迎えているが、既収フィルムの中、撮影漏れ等文書約20,000齣の追加収集することによって、総合的研究の基盤を達成することになる。

_その他の平成14年度三菱財団人文科学研究助成金の新規申請中

[課題]「中国古代地域史研究 _『水経注』の分析から」

[代表研究者：堀 敏一] (平成14・15年度2ヶ年間)

[目的]；

近年、科学的な調査と考古学的な発掘および夥しい出土文物によって、中国古代史研究は更めて、中原地域とその周辺の各地域を対象とする地域史を中心に、具体的な史料の再構築の必要性がさげばれている。

『水経注』は、中国最古の地理書(原典6世紀)として、中国の河川を中心として、各地域の地勢及び都邑・遺址・遺物に関して、調査を行ったものである。さらに注目すべきは各地の人物や歴史事実の記録、及び伝承に至るまで丁寧な記録を残している。これは古代地域史の資料の豊庫である。

中国では、宋・明以来、それまでに佚われた部分を含めて、この史料の正確な復元と解注が行われ、特に清朝考証学者及び二十世紀以降の歴史学者がその研究に多大な努力を行って来た。我々はその基礎に立って中国古代史研究の立場から『水経注』の理解と評価とを再検証して、現代につながる新たな中国古代の地域史の具体像を明らかにすることを目的とする。

(2) 各研究委員会による収集資料の整理・研究並びに研究成果の編集等

A) 東亜考古学研究委員会

_①故梅原末治評議員(京都大学名誉教授)の寄贈にかかる東亜考古学資料(写真、実測図、拓本、野帖等)の整理とその目録の作成。

_②「東アジア都城遺跡研究」の作成。(以上、前年度の継続)

B) 古代史研究委員会

- ①中国古代都市研究会の開催。
- ②水経注研究会および張家山漢墓出土竹簡（漢律）の講読会の開催。
- ③「東アジア都城遺跡研究」の作成協力。（以上、前年度の継続）
- ④『晋書食貨志譯註』の作成。
- ⑤東洋文庫所蔵中国画像銘、造像銘、墓碑銘拓本の整理研究。

C) 唐代史（敦煌文献）研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収敦煌等文献及びそれらの研究成果の公開・情報の提供。
- ③敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集及びそれらに引用された出土文書番号の採録カード（研究文献目録補遺）の補充。
- ④内陸アジア出土古文献研究会の開催。
- ⑤日本現存中国拓本研究会の開催。（以上、前年度の継続）

D) 宋代史研究委員会

- ①『宋史食貨志訳註(五)(六)及び総索引編』の作成。
- ②『宋史食貨志訳註(一)～(四)索引』小冊子の作成。
- ③『朝野類要訳註』の作成。
- ④『宋会要輯稿』食貨之部の要項（地名、一般）及び語彙索引の作成。（以上、前年度の継続）
- ⑤宋代研究文献目録及び速報の作成。

E) 明代史研究委員会

- ①明代社会経済等に関する文献・『実政録』（呂坤撰）の講読会の開催。（前年度の継続）

F) 清代史（満蒙）研究委員会

- ①「東洋文庫所蔵満文_案」の整理・研究。（隔週、研究会の開催）
- ②各国所蔵の満洲語文献の総合的調査・研究。（以上、前年度の継続）

G) 近代中国研究委員会

- ①近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 近現代中国関係資料の収集、整理、データ作成。
- ③中国調査資料研究会の開催。
- ④日中現代史研究会の開催。（以上、前年度の継続）

H) 日本研究委員会

- ①『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題() ()』の作成。（前年度の継続）
- ②日本関係洋書解題目録の作成。

I) 朝鮮研究委員会

- ①『朝鮮王朝後期戸籍大帳解題』の作成。（前年度の継続）
- ②漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
- ③李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

J) 中央アジア・イスラム研究委員会

- ①イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
- ②ロシア所蔵中央アジア古代語文献の総合的研究。
- ③イスラム社会の構造の研究。
- ④中央アジア・トルコ諸民族史の研究。（以上、前年度の継続）
- ⑤隊商貿易史の研究。
- ⑥トルコ日本両国の近代化の比較研究。

K) チベット研究委員会

- ①東洋文庫所蔵チベット語文献のデータベース作成。
- ②チベット語文献講読会の開催。（以上、前年度の継続）

L) 南方史研究委員会

- ①南アジア中世史（イスラム政権時代）・東南アジア関係史料の蒐集。（前年度の継続）
- ②タイ語関係研究資料の整理、目録の作成。

③辻文庫目録(3)、荻原文庫目録のIndexの作成。

平成14年度財団法人東洋文庫特定事業計画書

財団法人 東洋文庫
理事長 斯波義信

平成14年度財団法人東洋文庫特定事業計画の概要は下記の通りです。

事業内容

[事業名] アジア関係資料データベース化プロジェクト [プロジェクト代表：斯波義信]

[期間] 平成13年度～同17年度(5ヶ年計画)。

当初予定された事業は完了したので、新たに東南アジア関係の資料のデータベース化事業を推進する。

[目的] 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当称氏の寄付金5千万円を以て、東南アジア研究を促進するためであったが、当初予定の事業を終えたので、今後は広くアジア関係資料の公開も含め、データベース化事業を推進することを目的とする。

[事業] アジアを中心とした資料の整理公開のためのデータベース化事業を進める。

平成14年度ユネスコ東アジア文化研究センター事業計画書

財団法人東洋文庫附置

ユネスコ東アジア文化研究センター

所 長 石 井 米 雄

ユネスコ東アジア文化研究センターは、東アジアを中心とするアジア諸地域を対象とする人文・社会科学の分野の総合的調査研究を行ない、かつ当該分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図るために、次の事業を行なう。

事業項目

I ユネスコ協力事業

II 学術情報事業－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－

1. “Asian Research Trends” の編集・出版
2. 国内外研究情報の収集

III コンピュータネットワーク事業

1. 研究情報データベースの作成
2. コンピュータネットワークの形成

IV 重要文献の研究・保存事業－アジア重要文化財（文献）の研究・保存－

1. アジア史料の研究・保存

事業内容

I ユネスコ協力事業

ユネスコ本部および日本ユネスコ国内委員会の企画・運営する事業に協力し、関連する諸事業を推進する。

(1) 「中央アジア文明史」編集協力

対象事業：ユネスコ本部企画出版「中央アジア文明史」。

実施事業：「中央アジア文明史編集協力委員会」の組織。

同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀－20世紀）の編集協力。

(2) 「日本の哲学・思想」情報提供

対象事業：日本ユネスコ国内委員会・東洋文庫設置インターネット・ウェブサイト「日本の哲学・思想」。

実施事業：ウェブサイトの公開・維持管理。

II 学術情報事業－アジア・北アフリカ人文・社会科学関係－

アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会に関する調査研究を実施する。併せて、関連する情報を組織的かつ継続的に収集・交換・公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

1. “Asian Research Trends” の編集・出版

出版物名：“Asian Research Trends: A Humanities and Social Science Review,” No.13.

出版内容：①アジア・北アフリカ諸地域研究の動向。(月)アジア研究機関訪問調査報告。

②講演・研究報告、その他。

2. 国内外研究情報の収集

国内外のアジア・北アフリカ研究機関および研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学術交流のための基礎資料とする。

(1) 国内研究情報の収集

実施事業：①訪問調査。②資料交換。③共催事業。

対象機関：国内の大学・研究所・図書館・学術団体等。

関連事業：「東洋学」関連研究機関ネットワーク形成。

(2) 国外研究情報の収集

実施事業：①訪問調査。②資料交換。③講演会・研究会の開催。④共催事業。

対象地域：韓国・中国等の東アジア地域、タイ・ベトナム等の東南アジア地域を中心として、南アジア・中央アジア・西アジア・北アフリカを含む。

(3) 海外専門家の招聘

実施事業：①アジア学の専門研究者の短期招聘。②他機関による招聘者の受け入れ、便宜供与。

(4) フランス国立極東学院との学術協力

実施事業：フランス国立極東学院（E F E O）東京支部（東洋文庫内）を通じた同学院との学術交流の推進。

Ⅲ コンピュータネットワーク事業

学術研究情報を組織的に収集し、コンピュータ入力してデータベース化する。収集データは、コンピュータネットワークおよび英文出版物により一般に公開する。

1. 研究情報データベースの作成

(1) 国内研究者ディレクトリの編集・出版

実施事業：国内研究者名簿（ディレクトリ）の編集。

対象分野：①アジア歴史学。②アジア言語文学。③印度学仏教学。④中国学。⑤韓国・朝鮮学。

(2) 国内研究文献目録の編集・出版

実施事業：国内研究文献目録の編集。

対象分野：①中央アジア研究文献。②中東・イスラーム研究文献。③明治初期翻訳文献。

④東方学研究文献。

2. コンピュータネットワークの形成

(1) 東洋文庫ホームページによる情報提供

実施事業：研究情報データの一般公開。

(2) 国立情報学研究所への情報提供

実施事業：研究情報データベースの提供。国立情報学研究所の情報検索サービス（N A C S I S - I R）を通じて、研究者・研究機関に公開する。

IV 重要文献の研究・保存事業 ―アジア重要文化財（文献）の研究・保存―

アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し 普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

1. アジア史料の研究・保存

(1) 「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集・出版

実施事業：フランス国立極東学院（E F E O）所蔵『国朝処置萬象事宜録』（漢文）の写真複製、およびその英訳・訳注・解説書の出版。ベトナム関係史料の調査研究。

(2) 「朝鮮植民地期文化財調査報告書」の編集・出版

実施事業：朝鮮総督府時代に実施され、未公刊の文化遺跡調査報告書。編著者：有光教一
高麗美術館研究所長・京都大学名誉教授、藤井和夫実践女子大学講師。

(3) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及